



2016年4月20日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6693-9571)

株式会社CUREDの第三者割当増資の引受に関するお知らせ

当社は、2016年4月20日開催の取締役会において、株式会社CURED（代表取締役社長：道下眞弘、横浜市、以下、「CURED」）が実施する、当社及び株式会社免疫生物研究所（以下、「免疫生物研究所」）を引受先とする第三者割当増資（以下、「本第三者割当」）を引受けることを決定しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 本株式取得の目的

当社は1998年に設立し、熊本大学発バイオベンチャーとして、遺伝子破壊マウス作製受託をはじめとする基礎研究支援から非臨床試験、臨床試験、更には診断までカバーしたトータル創薬支援ツールをグループで提供することで医薬品開発をサポートし、社会に貢献することを目指しております。

一方、CUREDは2015年8月、抗体医薬品の研究開発に特化したバイオベンチャーとして横浜市で設立され、日本エイズ学会理事長・松下修三教授（熊本大学エイズ学研究センター長）の研究成果を日米欧で権利化した特許の独占的実施許諾を受けております。松下教授は、マウスから得られたモノクローナル抗体をもとに、定常領域のヒト化や可変領域の改変等により、中和活性を失うことなく副作用を著しく軽減させた中和抗体の開発に成功し、抗HIV抗体の投与後も長期にわたりHIVの増殖を抑えられている症例も見出されました。現在、エリートコントローラー（Elite Controller）から分離したモノクローナル抗体のADCC活性を上昇させることにより、HIVの細胞への侵入を防ぐだけでなく、感染細胞を破壊することでHIVを体内から排除しHIV感染症を治癒に導く画期的な治療法を開発しています。

当社は、免疫生物研究所と資本業務提携を締結し協業スキームの構築を推進しております。このたびの本第三者割当は、CUREDの資本政策に基づくものであり、当社と免疫生物研究所とが共同で出資を行うことを通じて、免疫生物研究所はCUREDの有する抗HIV抗体を遺伝子組換えカイコ技術を用いてフコースを持たないADCC活性の高い抗体に強化、改良するとともに、当社は当社の創薬支援プラットフォームおよびネットワークを活用して当該抗体の評価を行い本抗体医薬品の実用化を強力に推進することを計画しております。

当社は、このたびの本第三者割当を通じて、三社の成長や発展に貢献していくことが大きく期待できると判断できること、また、本抗体医薬品の実用化により、HIV感染症を治癒に導く安全で安価な抗体療法を世界に先駆け確立し、感染者のQOL向上と医療費抑制に貢献できると考え、本株式取得を実施することといたしました。

2. CUREDの概要

(1)	名 称	株式会社CURED
(2)	所 在 地	横浜市西区北幸二丁目9番40号
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 道下 眞弘
(4)	事 業 内 容	抗体医薬品の研究・開発
(5)	資 本 金	116,250千円（資本準備金 116,250千円）
(6)	設 立 年 月 日	2015年8月26日

3. 取得株式数、取得価額及び取得後の所有株式数の状況

(1)	取得前の保有株式数	一株（持株割合 ー%）
(2)	取 得 株 式 数	21,000株
(3)	取 得 価 額	79,800千円
(4)	取得後の保有株式数	21,000株（持株割合7.6%）

※取得後のCURED大株主の状況

取得前（2016年3月31日現在）		取得後（2016年5月11日時点）	
道下 眞弘	42.5%	道下 眞弘	36.1%
株式会社 パシフィック・リム・ベンチャーズ	10.6%	株式会社 パシフィック・リム・ベンチャーズ	9.0%
八日市谷 隆	8.5%	株式会社免疫生物研究所	7.6%
他経営陣及び個人	38.4%	株式会社トランスジェニック	7.6%
		八日市谷 隆	7.2%
		他経営陣及び個人	32.5%

4. 日程

2016年 4月20日	当社取締役会決議日
2016年 5月11日	本株式取得予定日

5. 今後の見通し

現時点において当社の2017年3月期の連結業績に与える影響は未定ですが、今後、本提携の具体的な進捗に応じて業績に影響を与えることが判明した場合には、速やかに公表いたします。

◆ご参考

H I V (Human Immunodeficiency Virus、ヒト免疫不全ウイルス)

H I Vは、ヒト免疫不全ウイルスで、ヒトの免疫をつかさどるTリンパ球やマクロファージなどの免疫細胞に感染するウイルスです。感染してH I Vが増殖することにより免疫細胞が減少し、免疫が低下して様々な病気を発症した状態がエイズ（AIDS：Acquired Immuno-Deficiency Syndrome、後天性免疫不全症候群）です。日本におけるH I V感染者数は累計17,849人（2015年12月）、エイズ患者数は累計8,056人と年々増加しています。現在、H I Vを完全に排除する治療法は無く、抗H I V薬によりウイルスの増殖を抑制してエイズの発症を防いでいます。

エリートコントローラー (Elite Controller)

エリートコントローラーは、未治療でも体内でH I Vが増殖せず、血液からウイルスRNAが検出されない長期無症状感染者です。

A D C C (Antibody-Dependent-Cellular-Cytotoxicity、抗体依存性細胞傷害) 活性

A D C C活性は、抗体が細胞や病原体といった標的細胞に結合することにより、抗体依存的に誘導される標的細胞傷害活性です。

フコース

フコースは、糖鎖を構成する単糖で、フコース修飾された糖鎖（フコシル化糖鎖）は種々の生理活性を有します。フコシル化糖鎖は、がんや炎症等と関与し、その増加を捉える腫瘍マーカーも開発されています。また、A D C C活性は抗体の糖鎖修飾に影響され、特にフコース非修飾抗体はA D C C活性が向上することが報告されています。フコース非修飾抗体は、次世代抗体医薬の開発に応用することが期待されています。

以上